

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
衛星・科学業務委員会(第41回)
議事概要(案)

1 日時

令和6年9月17日(火)～20日(金)【メール方式による検討】

2 議事

- (1) 衛星・科学業務委員会(第40回)議事概要(案)について
- (2) ITU-R SG4関連会合(2024年4-5月)の報告書(案)について
- (3) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)への日本寄与文書(案)について
- (4) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の外国等寄与文書の審議表(案)について
- (5) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の対処方針(案)について
- (6) その他

3 配付資料

- 資料 衛・科-41-1 衛星・科学業務委員会(第40回)議事概要(案)
資料 衛・科-41-2 ITU-R SG4関連会合(2024年4-5月)の報告書(案)
資料 衛・科-41-3 ITU-R SG4関連会合(2024年10月)への日本寄与文書(案)
資料 衛・科-41-4 ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の外国等寄与文書の審議表(案)
資料 衛・科-41-5 ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の対処方針(案)

- 参考資料1 第30回衛星業務WG結果報告
参考資料2 ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の開催案内
参考資料3 衛星・科学業務委員会 構成員名簿
参考資料4 WRC-27議題一覧

※ 下線がある配付資料は不開示情報を含むものがあるため、出席者限りの取扱。

4 出席者(敬称略、順不同)

主 査:加藤 寧

構成員:中川 勝広、藍澤 志津、新 博行、伊東 宏之、今村 浩一郎、大嶋 由実、岡崎 彰浩、
神頭 知美、河野 宇博、佐藤 祐子、篠原 笑子、外山 美勝、中間 弘、廣瀬 幸、山條
朋子

5 議事概要

- (1) 衛星・科学業務委員会(第40回)議事概要(案)について
資料 衛・科-41-1に基づき、衛星・科学業務委員会第40回会合の議事概要(案)の

確認を行った。特段意見はなく、構成員から承認を得た。

(2) ITU-R SG4関連会合(2024年4-5月)の報告書(案)について

資料 衛・科-41-2に基づき、ITU-R SG4関連会合(2024年4-5月)の報告書(案)について検討を行った。特段意見はなく、構成員から承認を得た。

(3) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)への日本寄与文書(案)について

資料 衛・科-41-3に基づき、ITU-R SG4関連会合(2024年10月)への日本寄与文書(案)の検討を行った。次の議論の後、構成員から承認を得た。

● 資料 衛・科 41-3-1 寄書本文(4A/J-1)

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

①(p.2のthe CPM draftという記載について)the draft CPM textとしたほうがよろしいかと存じます。

→(B-SAT)修正しました。

②(p.2の It is proposed～の記載について)こちらの寄与文書では、CPMテキスト案の4章と5章の修正提案となっておりますが、3章の検討結果のまとめができる前に、Methods to satisfy agenda itemを提案するのは時期尚早というコメントが会議であるかもしれないと思いました。提案しているMethod Bの根拠は、4A/J-2の寄与文書の検討内容と推察します。必要に応じて、別の寄与文書で示した検討結果に基づいて、CPMテキスト案の修正を提案しているということも述べてもよいのではないかと思います。ただし、WP 4Aの流儀に詳しいわけでもありませんので、追記の必要性のご判断はご提案者にお任せします。

→(B-SAT)これを含め寄書全般にわたり、貴重なご指摘、ありがとうございます。技術検討を行う文書”WD”を参照し、その結果であることを追記しました。

③(p.4の1/1.4/4.2 Method B Modify～の記載について)最初の4行がMethod Bの概要を説明し、後続の段落がその詳細を説明する構成と理解しました。この概要のテキストには、後続する2段落目に説明されている調整手続きには言及されていませんが、概要説明としてはハイライトする必要はないという考え方でよろしいでしょうか？

→(B-SAT)この節では、主な訂正点を箇条書きにしています。5.516Aの修正はその1つで、他にもたくさんの修正点があります。節の最初に、主な提案の概要を示すという文を追加しました。

④(p.4の1/1.4/4.2 Method B These modified footnotes という記載について)“These modified footnotes”と複数形が主語になっておりますが、1

つ前のセンテンスではNo. 5.516Aの修正しか言及しておらず、つながりが分かりにくいように感じました。5章では複数の脚注の修正例があり、Method Bとしては複数の脚注を修正する考え方だと理解はしています。必要に応じて、テキストの修正をご検討ください。

→(B-SAT)単数形に訂正しました。

⑤(p.4の1/1.4/4.2 Method B In addition～ の記載について)2つ上での段落でもNo. 5.516Aを修正するのがMethod Bである旨が説明されていますが、改めて段落を分けてその説明をされている理由はございますでしょうか？記載が分散しないように、2つ上の段落の記載にまとめるという考え方もあると思います。

→(B-SAT)削除しました。

● **資料 衛・科 41-3-3 寄書本文(4A/J-3)**

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

Attachmentに含まれる水色ハイライトが今回の新たな提案と推察します。その旨を、本文のカバーページに説明するとよろしいかと存じます。また、Attachmentの冒頭に、Source: Document 4A/128 (Annex 33) のように記載すると読み手に親切と思います。

→(B-SAT)ご指摘を踏まえ修正しました。

● **資料 衛・科 41-3-4 寄書本文(4A/J-4)**

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

①本文1ページ目の項目B)の最後に、”should be used to be reduced”と記載されていますが、”should be used”の意図でしょうか？

②Attachmentに含まれる水色ハイライトが今回の新たな提案と推察します。その旨を、本文のカバーページに説明するとよろしいかと存じます。また、Attachmentの冒頭に、Source: Document 4A/128 (Annex 20) のように記載すると読み手に親切と思います。

→(B-SAT)ご指摘を踏まえ修正しました。

● **資料 衛・科 41-3-6 寄書本文(4A/J-6)**

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

新たにAnnex 3の内容を追加される提案をしていますが、このAnnex 3を参照するテキストが新勧告草案に向けた作業文書の中になく思っています。Annex 3

の内容を含めることがある程度合意されてから、どこから参照するかを検討するお考えでしょうか？

→(スカパーJSAT)ご質問いただいた通り、Annex 3の内容を含めることがある程度合意されてから、どこから参照するかを検討する所存です。また、そもそも現時点での当該作業文書は文書構成上の問題を抱えているように感じており、ご覧いただける通り、文書上Annex 1が二つある状態で、二つ目のAnnex 1も新勧告案本文及びそれに続く一つ目のAnnex 1いずれからも参照されておられません。一方で、二つ目のAnnex 1が一つ目のAnnex 1を補足するような内容にもなっていないように見受けられ、二つ目のAnnex 1の目的は新勧告案本体のAnnexとすることなのかと(その場合はAnnex 2とすべきですが)当社側で推測し、当社が追加提案したAnnexは念のためAnnex 3としている状況です。いずれにしましても、このあたりはWP4A会合期間中に提案元の意図を確認したうえで、文書構成を見直し、当社提案のAnnexをどのように参照すべきか検討したいと考えております。(当社のAnnexに関しては、新勧告案で挙げられているパラメータを用いた計算例を示しているだけですので、体裁上は新勧告案本体もしくは一つ目のAnnex1いずれから参照しても問題無いのかと考えています。)

● 資料 衛・科 41-3-12 寄書本文(4C/J-5)

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

AttachmentのSummary of revisionの記載の最後で、”corresponding systems”と複数形になっておりますが、Annex 4ではQZSS systemと単数形で表現されていますので、Summary of revisionの記載も単数形にされてはと思います。

→(スカパーJSAT)御指摘の通り、本寄与文書案では、単一のシステムに関する提案のみのため、単数形に見直しましたので、添付致します。(添付2点目)

なお、本寄与文書の改訂対象としているITU-R勧告M.1787は、現在は複数のシステム特性のアップデートや新規追加が議論されているため、summary of revisionは最終的には他国の提案するシステム特性の アップデートや新規追加も含めてWP4C会合中に記述が検討される見込みであることを念のため申し添えます。

● 資料 衛・科 41-3-13 寄書本文(4C/J-6)

NTTドコモ新構成員から次の意見があった。

【意見】

①(単なる確認ですが)提案の記載において、for possible studies under Resolution 684 (WRC-23) とさらっと書かれていますが、WRC-31の暫定議

題であることをあまりハイライトしないような意図で、このような表現をされているのでしょうか？

→(JAXA)寄与文書冒頭のSubjectにWRC-31の暫定議題であることを示しており、特段の”ハイライトしないような意図”はありません。ITU-Rやadministrationへのinviteは決議684に記載されているので、直接の記載がある決議684のinviteに対応する提案であることを示す意図のみです。

②寄与文書のタイトルをWORKING DOCUMENT ... とされていますが、現状の副題のワードを使って、Proposed new study on ”Technical characteristics and operational objectives for emerging RNSS systems”のようなタイトルとしたほうが分かりやすいのではないのでしょうか？

→(JAXA)御助言に従って、タイトルを見直しました。

③また、AttachmentにおいてREPORT ITU-R M. [] という表現を使われておりますが、今回日本が新たに提案する内容だと思しますので、[]の中に記載するドキュメント略称も合わせて提案してよいのではないかと思います。

→(JAXA)確かに、日本寄与文書で提案したほうがよいのですが、本件は、他主管庁からの寄与も予想され、当該主管庁での検討が未だ日本の審議ほどは進んでいないため、現時点で適切な略称の提案を当該主管庁関係者と議論するまで至っておりません。このような状況のため、[]の中の略称はWP4C期間中の議論としたいと考えております。

④ Attachment の Introduction にて、” the conformity with the technical conditions in the existing regulations”という表現をされつつ、その後のSection 2及び3では、Protection of ... となっており、共用検討を実施するようにも見えます。WRC-31の暫定議題である状況で、共用検討を実施することは時期尚早というような意見が会合で出される可能性もあるかと存じますが、問題ないでしょうか？

→(JAXA)ここで行うのは、他業務を保護するための条件としてRRに記載されている条件を満足するためのRNSS特性であり、他業務から共用検討のための特性の提示等を求めることは意図しておらず、御懸念の意見が出た場合でも提案する検討のスコープについてブロックされないように説明していきたいと考えております。

(4) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の外国等寄与文書の審議表(案)について資料 衛・科-41-4に基づき、ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の外国等寄与文書の審議表(案)の検討を行った。特段の意見はなく、構成員から承認を得た。

(5) ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の対処方針(案)について

資料 衛・科-41-5に基づき、ITU-R SG4関連会合(2024年10月)の対処方針(案)の検討を行った。特段の意見はなく、構成員から承認を得た。

(6) その他

事務局から、外国等寄与文書の審議表については、別途メールで検討する旨を報告した。

以上